

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム・滑石
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県 長崎市 滑石6丁目5-75
記入者名 (管理者)	中川 淳子
記入日	平成 20年 9月 13日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『ゆったり、楽しく、ありのままに』をモットーに、その人らしく生活できるよう支援している。	○	小さい事からでも、地域の方々と関わりを持てるようにしていきたい。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時や勉強会等、職員同士が情報交換を行い、その人に応じた支援方法やよりよりホーム作りに努めている。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族には家族会、面会時等に伝えている。また、見学に来られた方にも説明している。運営推進会議では、事業計画報告時に理念に触れ、説明を行なっている。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	庭掃除や散歩、買物の時に、近所の方への挨拶はできている。一度だけ、近所の方が「ここはどういう所ですか？私も入れますか？」と訪れたことがあったが、気軽な訪問はほとんどない。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大園小学校にて行われる10月のふれあいまつりには、ユアライフ滑石(同法人の施設)として出店し、それにスタッフも参加している。利用者も見学に行き、少しずつ地域活動に参加するよう、努めている。毎週月曜日、ゴミステーション内外の掃除を自主的に行なっている。	○	地域の方(特に小学生等)との交流を図っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人内で配食サービスを行っており、滑石の職員も参加し、高齢者宅へ訪問し、安否確認を行っている。また、ユアライフ滑石にて、ユアライフ祭り(今年初)、餅つき等、地域の方も参加できる場を提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を月1回の勉強会で話し合い、検討した。また、自己評価は、評価票を全職員に配布し、職員2人1組で取り組み、それをもとに、勉強会にて全職員で点検していった。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行なっている事で、地域の方にも消防訓練に参加して頂き、そこでも様々な意見を下さっている。運営推進会議に、職員1名が順番に参加して頂くことで、職員自身も運営推進会議への理解を深めている。	○	今後も、職員にも運営推進会議に参加し、地域の方と共にグループホーム・滑石のことを考えていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市職員の方にも参加して頂き、御意見を頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を利用されている方がおり、全職員が内容を理解できているとはいえない。また、学ぶ機会も設けていない。	○	制度自体への理解を深められるよう研修会に参加したり、各個人が勉強し、それを全職員で学び合う等の機会を図っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7～8月に、法人内で虐待防止に関する勉強会を行ない、全職員が参加し、虐待についての理解を深めた。それについて、職員同士で話し合っていない。	○	実際のサービスの中で、やっていないのか、声掛けをどうか、全職員で話し合い、見直していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>面接時に重要事項説明書を説明し、不明な点がないかを必ず尋ねている。契約時にも十分に説明し、途中で利用者や御家族に確認し、納得した上で契約を交わしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回、介護相談員の派遣を受け入れ、利用者の相談にのっていただいている。また、利用者の声に耳を傾け、朝礼時等に他職員へ申し送りを行ない、情報を共有している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に、健康状態や日頃の様子を伝えている。また、体調が悪くなった際は、電話にて状況報告し、受診依頼等を行なっている。また、昨年より、ホーム便りを毎月作成し、請求時に一緒に送付することで、あまり面会に来れない方にも様子を伝えている。職員の異動についても、ホーム便りにて報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族の方には、いつでも気軽に言っただけよう伝えており、要望(こまめにパッドを確認、交換してほしい等)については出来る限り、支援させていただいている。また、年1回、家族懇談会を実施している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回の滑石会議、月1回の勉強会にて職員の意見を聞くようにしている。また、日々の職員の気付きや改善点も言ってもらい、助かっている。しかし、なかなか自分の思いを言えない方もいると思われる。</p>	○ 日頃に、もう少し職員の気付きや意見が言える環境を作りたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務の調整については、随時相談しながら行なっている。以前より、「夜勤者1名なので不安」との声が聞かれているが、対応難しいことは御家族に伝えている。また、面会時、契約時に十分に説明を行うことで、現在は、そういう意見はない。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年度、法人内の異動にて管理者、職員の交代があった。ダメージが大きいと思われる入居者には、御家族より伝えてもらうことで、少なかつたと思われる。他入居者も戸惑われないよう、既存職員が間に入るなどし、配慮に努めた。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外での研修会には、パート職員も参加する機会を設けている。その報告は、復命書と月1回の勉強会にて他職員へも報告し、情報を共有している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームの方との交流する場や見学することは行っていない。</p>	<p>○ 他のグループホームを見学し、自分のホームやサービスを見直す機会を設けていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>会議等で来訪した際、事務所で会った時には、「何か変わったことないですか」「何かあれば、いつでも言って下さい」等、必ず声を掛けてくださる。また、30分と短い時間であるが、休憩時間を順番に設けている。入居者と離れた休憩室も確保している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>滑石会議に参加していただき、適切な助言をいただいている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>可能な場合、入居前に本人が見学に来ていただき、そこで、不安に思っていること、本人が望んでいることを聴くように努めている。また、小規模通所介護からグループホーム入居へ至る場合、デイ利用時に普段の会話の中で聴くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談や面接時に、不安なこと、私たち職員に対しての要望をよく聴き、確認している。ホームの良い点、悪い点を伝え、理解していただき、入居に至っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話をじっくりと聴き、グループホームでの対応が難しい場合は、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等、別のサービスを紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定している方には、小規模通所介護を利用させていただくことで、職員と顔馴染みになり、入居時の混乱も少ない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の皮むきや洗濯物たたみを一緒に行なって頂いている。これまでの入居者1人ひとりの興味や特技(歌や編み物など)を共有し、作品を共に作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況を伝え、入居者自身のことを職員も家族と同じように考え、支援していくよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、本人と家族との時間を大切にできるよう、場の提供に配慮している。まだ、ホーム便りや面会時に行事(特に外出)への参加を呼びかけている。入居者によっては、御家族の協力のもと、外出や外泊を行なって頂いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が気軽に訪れやすいよう、雰囲気作りに努めている。墓参りも御家族の方が連れて行って下さる入居者もいる。	○	御家族がなかなか面会に来られない方にも、入居者自身が行きたい所へ外出する機会を図っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気が合う入居者同士は、自ら声を掛け話している。話が合わずに(耳が遠く)困っている場合は、職員が間に入り、関係作りに努めている。レクリエーションや音楽療法を活用し、入居者同士の交流を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人内には、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの様々なサービスがあり、それらを紹介し、可能な限り、スムーズに移行できるようにしている。また、契約終了時に「何かあれば、いつでも相談に来て下さい」と声を掛けている。	○	寒中お見舞い、暑中見舞い等、手紙を書いて送りたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者の希望や意向を把握するようにしている。また、表情や行動、動作等からも汲み取るように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に本人や御家族に確認した上で、利用台帳にまとめ、入居前に他職員へも情報を伝えている。また、日々の会話の中でも、これまでの生活がわかる場合もあり、本人が好む話題作りを行なっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	野菜の皮むき、雑巾縫いなどのできることは行なって頂いている。ケース記録やバイタルチェック表、本人の様子(皮膚状態を含む)等を通じて、その人の現状を把握している。また、朝の申し送りや連絡ノートを活用し、他職員と情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人には日々の関わりの中で、御家族には面会時、意向を確認している。職員の意見も確認した上で、ケアプランを作成している。	○	職員間で統一したケアを行えるよう、ケースカンファレンスを実施していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	退院時、状況が変化した場合は、その都度見直している。	○	同上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方については、勉強会にて学んでいる。入居者の状態変化は、ケース記録に記入するようにしている。しかし、ケアプランの実践の様子までの記入に至っていない。	○	職員がサービス内容をしっかりと把握し、実施時の様子をケースに記入し、ケアプランの評価や見直しに役立てたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人には様々なサービスがあり、緊急時の搬送、緩やかな生活の場の住み替え等、可能な限り、要望に応じて支援できる体制を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練には、消防署の方、地域の方(民生委員、近隣のアパート管理人、郵便局局長)にも参加して頂き、いただいた助言を今後に活かしている。	○	今後は、近くに小学校がある為、そちらとの繋がりを持てるように努めたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内のデイケアを利用している方もいる。希望時に、ヘルパーの資格を持つ訪問美容師が来てくださっている。また、ヘルパーに薬取りを依頼している方もいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	虐待についての勉強会は、地域包括支援センターの方が講義して下さった。また、8月の運営推進会議には参加して下さり、介護や福祉の動向などを話された。困ったケースでは相談に行くと、親切にアドバイスをいただいた。	○	今年度より年に2回、運営推進会議に参加して下さるとの事で、今後、もっと協働していくと思われる。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、御家族同行をお願いし、都合が悪い時には職員が付き添っている。定期的な受診をして頂き、早期発見に努めている。また、往診に来てくれるかかりつけ医の入居者もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者4名の方の主治医は、診療内科の先生であり、ホームでの様子、バイタル等の状態を詳しく伝えたい時には、必要に応じて手紙を書いて、渡して頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診に来てくれるかかりつけ医では、看護師も一緒に来てくださり、相談にのって頂いている。必要時には、法人内の看護師へ診ていただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、職員が順番にお見舞いに行き、看護師より状態を教えてもらおうようにし、早期の退院に備えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師不在の為、医療が必要となった時については契約時に伝えていく。そのような場合になった時は、医療設備が整った病院、施設等へ移行できるよう、医師、御家族と共に話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の「できること・できないこと」を医師、御家族へ伝え、医療設備が整った病院、施設等へスムーズに移行できるように努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージを少なくするよう、関係者間の情報交換を十分に行なっている。しかし、緊急時はできていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	服を脱ごうとする入居者や尿意をもよおしている方に対して等、その方の側に行き、声を掛けている。記録類もきちんと管理し、廃棄書類はシュレッダーを使用している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	説明した上で、出来る限り選択して頂いている。入居者が希望や表出が出来ない場合には、表情等で見極め、その方の意思を尊重するように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にも掲げている「その人らしさ」を失うことのないよう、入居者が出来る部分で、家事を行なって頂いたり、趣味や特技を生かしながら生活出来るよう、援助を行なっている。落ち着かれない方がいる場合、業務を中止し、その方に付き添っている。	○ 「その人らしさ」をもっと見つけ、引き出していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御家族の協力で、行きつけの美容室へ行かれる方もいる。以前は、好みの美容室へ行かれていた方も、最近では体力低下の為、訪問美容師に任せている方が多い。入居者の中には、御家族の方が居室や外泊時にカットされることもある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食器拭き・片付け等、出来ることは職員と行なった頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	面接時、嫌いな物、嗜好は必ず確認している。苦手な食べ物の時は代替のものにて提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の活用や本人の様子を見ながら、トイレ誘導を行なっている。紙パンツ使用の方も、昼間は布パンツを使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の好きな時に入浴することは難しいが、入浴を好む方には回数を増やし、入浴して頂いている。入浴を拒否されて場合にも、時間を置くことで入浴されることもある。	○	現在、職員、入居者と共にのれん作りを行なっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後、眠くなる迄の時間をテレビを観たり、居室でゆっくりと過ごしたりと一人ひとり過ごし方や就寝時間が異なっている。また、室温にも気を配っている。昼夜逆転されている入居者へは、日中レクリエーションやドライブ、散歩を行ない、夜にぐっすり眠れるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食器の後片付け、野菜の皮むき等、これまでやられてきた家事の役割は、「それを手伝おうか」と自ら声を掛け、手伝われている。入居者の趣味(縫い物、編み物)を行なったり、好きな歌を歌ったりして、楽しみごとを支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は、お金の管理をできる方も少人数いたが、現在は、ものどられ妄想や認知症の進行に伴うトラブルが起きないように、金銭は預からないことを契約時に説明している。欲しいもの、必要なものは立て替えて購入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材購入では、入居者へ声を掛け、一緒に出掛けている。希望に添えない時もあるが、気候のよい時は散歩やドライブへ行き、気分転換を図っている。	○	できる限り、場所等希望に添えるような外出支援を行なっていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「菖蒲を見たい」「大村寿司を食べたい」という入居者の希望があり、予め計画を立て、6月に全入居者と2家族の参加にて、バスハイクを行なった。また、8月には海水浴に行き、夏の雰囲気を楽しんだ。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる方には、電話のやり取りは行なっている。手紙も入居者を書いて頂くよう、声を掛けるが、「私は書けない。」となかなか実施できていない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人が気軽に来訪できるよう、お茶やお茶菓子等の提供、ゆっくりとくつろげる場所の提供等、雰囲気作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での虐待の勉強会の時に、身体拘束についても触れ、職員の共有認識を図っている。現在、身体拘束は行なっていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	目配りを行うことで、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアに1名の職員が必ずいるようにしている。他入居者のトイレ誘導等、その場を離れる時には他職員へ申し送りを行ない、安全に心掛けている。		
	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤に関しては、所定の場所に鍵をかけ、危険防止に取り組んでいる。画びょうをズボンのポケットに入れていた入居者もあり、最小限の使用とした。使用していない画びょうは、引き出しに片付けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員が常に目を配り、転倒や所在不明の防止に取り組んでいる。服薬については、保管方法も含めて、マニュアルを作成した。消防訓練も実施し、万が一に備えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	受診時のこと、緊急時の対応方法等、定期的な確認は行っていない。	○	今後は、万が一に備えて、緊急時の対応方法、受診の仕方等、勉強会にて学んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練は、定期的に行なっており、地域の方にも参加して頂いている。また、本年度より、法人内で防災委員会を発足し、防災についての対応を考えていくと思われる。必要に応じて、ホームでも食料確保を行なっていく。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	医療的なケアが必要な場合は、グループホームでの対応が難しいことは面接時、契約時に説明している。一人ひとりに起こり得るリスクについては、その都度、御家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、全入居者にバイタルチェックを行なっている。また、顔色、表情等に気を配り、いつもと違った場合は職員間で情報を共有し、状況に応じては御家族へ連絡し、医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の変更については、業務日誌や申し送りにて他職員へ伝えている。服薬時の注意点については、マニュアル化している。しかし、全入居者の薬の内容等についての把握はできていない。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめな水分補給を行なっている。 ・食物繊維(ごぼう、芋類)やヨーグルトを多く摂れるよう、献立作成時に気を配っている。 ・便秘している方は、主治医に相談し、緩下剤(便を軟らかくするもの)を処方していただく。腹部マッサージの実施。 		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼食後、夕食後には、御自分でできる事はやって頂き、必ず職員が確認させて頂いている。年2回(6月と12月)、かかりつけ歯科医に定期往診を依頼している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の体重、活動量に応じて、食事量は調整している。毎月1日に体重測定を実施し、体重の増加が著しい場合は主治医へ相談し、指示を仰いでいる。お茶や汁を飲まれない方には、ヤクルト、ポカリ等、別のもので提供している。	○	今後は、法人内の栄養士に献立を見てもらい、バランスのよい食事を提供していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては、入居者、職員ともに流行前に実施している。C型肝炎の入居者がいらっした時は、注意事項について他職員へ伝達したが、きちんとしたマニュアルは作成していない。	○	今後は、万が一に備えて、きちんとマニュアル化していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは、毎食後に漂白し清潔を心掛けている。昼食後には、冷蔵庫や食器棚の扉や取っ手等の拭き掃除も実施している。また、新鮮で安全なものを提供できるよう、毎日買い物に出掛けている。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残り、賞味期限が切れていないかを点検している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	マンションの1階部分であり、玄関に入るまでに坂になっている。看板も小さく、見学者に「わかりにくい」と思われる。しかし、下駄箱の上に、花を飾っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	収集癖の方がいらっしたる為、花も限られた所にしか飾っていないが、入居者と会話しながら生けている。入浴については、ゆず湯、菖蒲湯を行ない、また、冬にはおでんや鍋料理をする等、季節感を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が気軽に話せるように、食堂のテーブルを3つに分けている。一人で過ごしたい方もその一角に座り、くつろがれている。リビングにあるソファの配置も工夫し、入居者の思い思いにくつろがれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がこれまで使われていたものを持ってきて頂いている。御家族が工夫され、写真やパッチワーク等、居室に飾っている入居者もいらっしゃる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、居室、食堂等の掃除を行ない、換気を行なっている。冷暖房を使用している時にも、毎朝、食堂等の窓を開けるようにしているが、統一されていないこともある。また、利用者の状態に応じた室温調整は行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下やトイレには手摺りがついており、歩行可能な方はそれを活用し、歩行訓練を行なっている。杖歩行の方も、手摺りがあることで安定し、「運動せんぼ」と一人で歩かれています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「何が分かりにくいのか」を入居者一人ひとりについて考え、他職員と話し合っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に季節の花を植え、観賞はしてもらっているが、実際に植えたり、水をやったりすることは難しい。	○	避難通路となっている為、範囲が限られているが、もう少し、庭を利用し、家庭菜園(ねぎ等の簡単なもの)を行ないたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○グループホーム・滑石では、音楽療法を毎週金曜日と隔週火曜日に実施しています。

○昼食後と夕食後には口腔ケアを行っており、6月の定期往診では「全入居者とも手入れがよい」と、お褒めの言葉をいただきました。